

東濃信金3期連続増益

3月期 コア業務純益4.2%増

東濃信用金庫(多治見市)が13日発表した2025年3月期決算は、市場金利の上昇による資金運用収支の増加で本業の収益力を示すコア業務純益は前期比4.2%増の29億500万円で3期連続の増益となった。純利益は、与信関連費用の増加で8.6%減の12億2200万円となり、3期連続の減益。期末預金残高は個人、公金ともに増加し、1.1%増で期末ベースでは過去最高の1兆2412億円となった。期末貸出金残高は、資材高騰や国際情勢不安などによる設備投資

の先送り、コロナ融資の繰り上げ返済などの影響を受け2.0%減の5639億円となった。減少に転じた

役員人事を発表

東濃信用金庫(多治見市)は13日、通常総代会と理事会を開き、近藤秀樹常勤理事と森真二常勤理事が常務理事に昇格し、深尾由佳久資金証券部長が常勤理事に就く役員人事を決めた。同日付。



近藤 秀樹氏(こんどう・ひでき) 愛知大卒。89年入庫。本店営業部長などを
経て20年常勤理事。
58歳。



森 真二氏(もり・しんじ) 千葉大卒。88年入庫。瑞浪支店長、監査部長などを
経て22年常勤理事。
59歳。



深尾 由佳久氏(ふかお・ゆかひ) さ 南山大卒。89年入庫。資金証券副部長を
経て22年資金証券部長。
59歳。

の5年3月期以来。金融再生法ベースの不良債権比率は0.41%改善の6.10%。財務の健全性を示す自己資本比率は、0.65%上昇の17.49%で、国内水準の4%を大きく上回った。

26年3月期予想は公表していないが、期末預金残高と期末貸出金残高の目標額を設定。ボーナスキャンペーンなどで個人預金を増やし、期末預金残高は60億円増の1兆2472億円、期末貸出金残高は40億円増の5680億円を目指す。